

(明治三十三年五月八日第三種郵便物認可)(每月四日十四日廿四日三回發行)

縣報

第貳拾九號

明治卅四年一月廿四日

和歌山縣

○縣令

○和歌山縣令第二號

明治三十年一月和歌山縣令第四號和歌山縣師範學校生徒募集細則第四條第一號ヲ左ノ如ク改ム

明治三十四年一月十六日

和歌山縣知事

椿

葵一郎

一本科生徒及簡易科生徒ハ明治三十三年八月文部省令第十四號小學校令施行規則第一百二十二條ノ學科目及程度

但當分本文ノ學科目中教育理科圖画唱歌及体操ヲ省ク

○和歌山縣令第三號

市町村學事獎勵規程左ノ通相定ム

明治三十四年一月十六日

和歌山縣知事

椿

葵一郎

市町村學事獎勵規程

第一條 本規程ハ普通教育獎勵ノ爲小學校教員學務委員及市町村吏員等ニシテ効績顯著ナルモノ若クハ小學校ニシテ成績優良ナルモノヲ表彰スルカ爲設クルモノトス
第二條 本規程ニ該當スルモノアルトキハ知事ハ賞ヲ行ヒテ之ヲ表彰ス

第三條 賞ヲ分チテ金圓物品ノ賞與及褒狀ノ二種トス

第四條 小學校教員等ニシテ本規程ニ依リ効績顯著ナリト認ムル事項左ノ如シ

一 小學校教員ニシテ多年教職ニ從事シ平素職務ニ精勵シ効績顯著ナルモノ

二 市町村吏員學務委員等ニシテ平素學事ニ精勵シ効績顯著ナルモノ

三 其ノ他教育上特ニ効績アリト認ムルモノ

第五條 小學校ニシテ本規程ニ依リ成績優良ナリト認ムル事項左ノ如シ

一 小學校ノ設備完整シテ他ノ模範トナスニ足ルヘキモノ

二 授業管理及訓練ノ方法特ニ超越シテ他ノ模範トナスニ足ルヘキモノ

三 就學兒童ノ歩合學齡兒童數ニ對シ九分五厘以上ニ達シ且出席生ノ歩合九分以上ニ達

セシモノ

四 其ノ他學校ノ成績他ノ模範トナスニ足ルモノ

第六條 第五條第三號ノ成績ハ每學年末ノ調査ニ依ルヘシ

第七條 郡市長ハ其郡市内ニ於テ第四條第五條ノ一ニ該當スト認ムルモノアルトキハ毎年

三月限事實ヲ詳記シテ知事ニ具狀スヘシ

○和歌山縣令第四號

和歌山縣師範學校生徒學資支給并貸與品規則中左ノ通改正ス

明治三十四年一月十六日

和歌山縣知事

椿 業一郎

第四條中 男生徒ノ「一夏褌袴及袴下一ヶ年一組」「一冬褌袴及袴下一ヶ年一組」「一靴下一

ケ月二足」ヲ刪除シ又女生徒ノ「一袴一ケ年一具」トアルヲ「袴在學中二具」ト改メ「一足袋一ケ年五足」ヲ刪除ス

第五條第二項月手當ハ筆紙墨ノ下「炭油」ノ二字ヲ木炭ニ改ム

○和歌山縣令第五號

公立中學校高等女學校實業學校職員俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則左ノ通相定ム
 明治三十四年一月十六日
 和歌山縣知事 椿 藁一郎

公立中學校高等女學校實業學校職員俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則

第一章 俸給額等級及諸給與方法

第一條 公立中學校高等女學校實業學校職員ノ俸給額ハ左記等級表ニ依リ支給ス
 但委任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル教諭ニシテ特ニ功勞アリ五ケ年以上一級俸ヲ受クル者ハ左表ノ範圍ニ拘ハラス月俸百二十圓迄増俸スルコトアルヘシ

職名	等級						
	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級
學校長	年俸千六百圓	全千四百圓	全千二百圓	全千圓	全九百圓	全八百圓	全七百圓
教諭	月俸百圓	上 九十圓	七十五圓	六十五圓	五十五圓	四十五圓	三十五圓
		下 八十圓	七十圓	六十圓	五十圓	四十圓	三十圓
助教諭	月俸四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓		
舍監	月俸五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓

書記月俸三十五圓三十圓二十五圓二十圓十五圓十二圓一十圓

第二條 職員ノ俸給ハ其ノ授業ノ時間及學科ノ輕重難易等ニ依リ前表ニ掲クル俸給等級相

當ノ額ヲ減給スルコトアルヘシ

第三條 俸給ハ凡テ本務ニ對シ之ヲ支給ス但敬諭助教諭等ニシテ舍監ヲ兼スル者ニハ相當

ノ手當ヲ支給スルコトアルヘシ

第四條 俸給ハ毎月二十一日ニ支給シ當日休暇ニ當ルトキハ繰下ケトス

年俸ハ月割計算ヲ以テ前項ノ期日ニ支給ス

轉任退職又ハ死亡ノトキハ第一項ノ定日ニ拘ハラズ直ニ之ヲ支給ス

第五條 傷痍疾病ノ爲メ勤務ヲ欠クコト九十日ヲ踰ユルトキ又ハ私事ノ故障ニ依リ勤務ヲ

欠クコト三十日ヲ踰ユルトキハ其ノ翌日ヨリ俸給ノ半額ヲ減ス但職務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ

若クハ疾病ニ罹リタルトキハ此ノ限ニアラス

陸軍給與令又ハ海軍々人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸給ヲ支給セス但其ノ

額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

第六條 一ヶ月未滿ノ俸給計算法ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一 新任及増俸減俸ノトキハ辭令日付ノ翌日ヨリ日割計算トス

二 轉任ノトキハ前任學校ニ屬スル俸給ハ辭令日付ノ當日マテ新任學校ニ屬スル俸給ハ

辭令日付ノ翌日ヨリ日割計算トス

三 休職廢職ノトキハ其ノ月ノ俸給全額ヲ給シ復職ノトキハ辭令日付ノ翌日ヨリ日割計

算トス

四俸給ノ半減ハ其ノ半減ノ日ヨリ事故ノ止ミタル日マテ日割計算ヲ以テ控除スルモノトス

五免職又ハ失職ニ該當シタル者ハ其ノ當日マテ日割計算トス

六前諸項ノ日割計算ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル但計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ切捨トス

第七條 在職中死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ハラズ在職最終ノ月俸額三ヶ月分ヲ其ノ遺族ニ給ス

第八條 教諭助教諭舎監書記ノ心得又ハ教授囑托雇等ノ名義ヲ以テ職務ニ從事セシムル者ノ俸給ハ第一條俸給等級表ノ範圍内ニ於テ支給ス

前項給與ニ關スル方法ハ凡テ前各條ノ例ニ依ル

第九條 職員ニシテ職務上待ニ勤勞アル者ニハ相當ノ賞與ヲナスコトアルヘシ

第十條 職員ニシテ宿直スル者ニハ賄料ヲ支給スルコトアルヘシ

第十一條 日給ハ出勤日數ニ依リ之ヲ支給ス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ及休暇日服忌中ハ仍之ヲ支給ス

第二章 旅費額等級及支給方法

第十二條 旅費ハ縣稅ヲ以テ支辨スル官吏吏員ノ旅費等級表ニ依リ之ヲ支給ス但特ニ定額ヲ定メテ支給スルモノハ此限ニアラス

第十三條 旅費支給ノ方法ハ明治三十年勅令第三百二十三號内國旅費規則ニ據ル

第十四條 師範學校職員ノ俸給旅費支給ノ方法ニ關シテハ本令第一章第一條ヲ除キ其ノ他

ノ各條ヲ適用ス

第十五條 明治三十二年和歌山縣令第二十七號ハ之ヲ廢止ス

○和歌山縣令第六號

明二十九年七月縣令第三十五號ヲ廢止ス

明治三十四年一月十七日

和歌山縣知事

椿 藁一郎

和歌山縣令第六號參照

明治二十九年七月縣令第三十五號ハ海草郡役所位置變更ノ件

○和歌山縣令第七號

長崎縣ニ於テ牛疫發生ニ付豫防ノ爲メ獸疫豫防法第十二條ニ依リ長崎縣ヲ發シ又ハ通過シタル牛羊山羊及其生皮骨肉ヲ本縣下ニ搬入スルコトヲ停止ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年一月十八日

和歌山縣知事

椿 藁一郎

○和歌山縣令第八號

明治三十年一月和歌山縣令第十四號醫業取締規則第六條第七條ヲ左ノ通り改正ス

明治三十四年一月十八日

和歌山縣知事

椿 藁一郎

醫業規則

第六條 施治患者死亡シ又ハ施術産婦ノ死産シタルトキハ死亡診斷書若ハ死産証書ヲ其戸

主若ハ之ニ代ルヘキ者ニ付與シ其原稿ハ滿十年間保存スヘシ

第七條 死体又ハ死産若ハ死胎ヲ檢按シタルトキハ該死者ニ對スル檢按書ヲ其戸主若ハ之

ニ代ルヘキ者又ハ引取人ニ付與シ其原稿ハ滿十年間保存スヘシ

○和歌山縣令第九號

明治三十三年九月内務省令第四十一號ヲ以テ規定セラレタル醫師ノ作爲スヘキ死亡診斷書

死体檢按書及醫師又ハ産婆ノ作爲スヘキ死産証書死胎檢案書ノ様式並ニ其記載方ハ左ノ各

項ニ準據スヘシ

明治三十四年一月十八日

第一 死亡診斷書死体檢案書

和歌山縣知事 椿 藁一郎

様式

死亡診斷書(死体檢案書)

一氏 名

二男女ノ別

三出產ノ年月日

四職 業 死亡者ノ職業

五病死、自殺、其他ノ變死、中毒ノ別

六病 名(自殺者ニ在テハ、手 段、自殺以外ノ變死者種類)

七發病ノ年月日(變死者自殺者等ニ在テハ之ヲ除ク)

八死亡ノ年月日時

九死亡ノ場所

右証明(檢案)候也

住
醫師 何 某 印

記載方

一戸籍上ノ氏名ヲ記スヘシ自殺者變死者等ニ在テ若シ氏名明カナラサルトキハ不詳ト記

スヘシ

二經久ノ死体ニシテ男女ノ區別明瞭ナラサルトキハ不詳ト記スヘシ

三自殺者變死者等ニシテ出生年月日明瞭ナラサルトキハ推定年齢何歳ト記シ若シ推定シ

能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

四死亡者家計ノ主働者ナル場合ニ於テハ死亡者ノ職業ノミヲ記シ死亡者若シ幼者老者婦

女等ニシテ一定ノ職業ナキ場合ニ於テハ家計ノ主ナル職業ヲ記シ死亡者ノ職業無シト

記スヘシ又死亡者一定ノ職業アルモ他ニ家計ノ主働者アル場合ニ於テハ死亡者ノ職業

ト家計ノ主ナル職業トヲ併記スヘシ

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又何工等成ヘク細密ニ記スヘシ

自殺者變死者等ニ在テ其職業明カナラサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

五病死ナルヤ自殺ナルヤ若ハ自殺以外ノ變死ナルヤ中毒ナルヤノ別ヲ記スヘシ
六病死ノ場合ニ於テハ其死因トナリタル病名ノ外何等ノ事項ヲモ記スヘカラス

同時ニ二種以上ノ疾病ニ侵サレ死亡シタル者ニシテ一ノ原病アリテ他ハ繼發病若ハ胎
後病ナルトキハ其原病名ノミヲ記シ又各種獨立ノ疾病ナルトキハ主トシテ死亡ノ原因
トナリタル病名ノミヲ記スヘシ若シ以上ノ區別ヲ爲シ能ハサルトキハ各種ノ病名ヲ併
記スヘシ

全ク死因タル病名ヲ診定シ能ハサルトキハ不詳ト記スヘシ

自殺者ニ在テハ其自殺ノ手段例之ハ縊死、刀傷、入水等ノ別ヲ記スヘシ

自殺以外ノ變死者及中毒者ニ在テハ其種類例之ハ溺死、壓死、燒死、他殺、河豚中毒、
「アルコール」中毒等ノ別ヲ記スヘシ

七病死者ニ在テハ死因トナリタル疾病ノ發病年月日ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ
推定何年月何日ト記スヘシ又全ク推定シ能ハサル場合ニ於テハ不詳ト記スヘシ

八病死、自殺、變死、中毒ニ拘ハラス死亡ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者等ニ
在テ死亡ノ時明瞭ナラサルトキハ推定セル年月日時ヲ記スヘシ此場合ニハ推定ノ二字
ヲ冠セシムルヲ要ス

九死亡ノ場所ハ郡市區町村大字名及番地（番戶番屋敷）ヲ記スヘシ若シ自殺者、變死者
等ニシテ漂着セル死体ナルトキハ其漂着シタル場所ヲ記スヘシ此場合ニハ其下ニ漂着
ト記スルヲ要ス

第二 死産証書、死胎檢案書

様式

死産証書(死胎檢案書)

一 父ノ氏名(私生子ノ場合ニ在テハ母ノ氏名)

二 父ノ出生ノ年月日(私生子ノ場合ニ在テハ之ヲ除ク)

三 母ノ出生ノ年月日

四 父ノ職業(私生子ノ場合ニ在テハ母ノ職業)

五 妊娠ノ月數

六 分娩ノ年月日時

七 分娩ノ場所

八 死胎ノ男女ノ別

九 死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別

右証明(檢案)候也

年 月 日 住 所 醫師(産婆)何某印

記載方

一 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スヘシ

二死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ

三死胎ノ何タルニ拘ハラズ其母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ

四死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ

其母ノ職業ヲ記スヘシ

總テ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成ルヘク細密ニ記ス

ヘシ

五妊娠ノ月數ハ受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一月ト做シタル

第幾月日ニ該當スルカラ記スヘシ

六分娩ノ年月日時ヲ記スヘシ若シ明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日時ヲ記スヘシ此

場合ニハ推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス

七分娩ノ場所ハ都市區町村大字名及番地(番戶番尾敷)ヲ記スヘシ

八死胎ノ男女孰レニ屬スルカラ記スヘシ若シ鬼胎等ニ在テハ男女ノ區別ヲ爲シ能ハサル

場合ニ於テハ其事由ヲ添テ不詳ト記スヘシ

九死胎ハ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若ハ私生子ナルカノ別ヲ記スヘシ

○和歌山縣令第十號

業務ノ何タルヲ問ハス一定ノ工場ヲ設ケ寄宿舎又ハ社宅ヲ有シ職工徒弟十人以上ヲ雇使シ

工業ヲ爲ス者ハ左ニ掲クル事項ヲ翌月三日限り所轄警察官署ニ届出ツヘシ

一 毎月末寄宿舎又ハ社宅内ニ在ル職工數及患者並死者數但患者死者ニ對シテハ其ノ職名

氏名年齡病症ヲ附記スヘシ

一患者負傷者ニシテ解雇ノ者及休業スルコト三十日以上ニ涉リタル者ハ其ノ職名氏名年

齡病症

明治三十二年七月當縣令第三十號ハ發止ス

明治三十四年一月十九日

和歌山縣知事

椿 莚一 郎

和歌山縣令第拾號參照

明治三十二年七月縣令第三十號工場職工數及患者數等届出ノ件

○告 示

○和歌山縣告示第四號

度量衡取締主任之証

第一五五號 第一五六號 貳葉

但那賀郡東野上村長へ交付ノ分

右紛失ノ旨届出ニ依リ無効トス

明治三十四年一月十二日

和歌山縣知事

椿 莚一 郎

○和歌山縣告示第五號

明治三十四年四月入學セシムベキ本縣師範學校本科女生徒二十五名豫備科男生徒三十名甲

種講習科生徒四十名募集ス

本科及豫備科志願者ニ在リテハ明治三十年一月當縣令第四號和歌山縣師範學校生徒募集細

則(明治三十一年十月縣令第六十一號明治三十二年四月縣令第二十號及明治三十四年一月縣令二號ヲ以テ改正)講習科志願者ニ在リテハ明治三十三年一月當縣令第一號和歌山縣師範學校小學校教員講習科規則ニ據リ來二月八日マテニ所轄郡市長ヲ經テ師範學校長ニ出願スヘシ
前項入學志願者ノ學力試驗ハ左ノ日割ヲ以テ和歌山市海草郡内ノ志願者ハ師範學校内ニ於テ其他各郡内ノ志願者ハ各郡役所内ニ於テ之ヲ行フ但本人ノ希望ニヨリ他郡内ノモノト雖師範學校内ニ於テ受験スルコトヲ許ス此場合ニ於テハ出願ノ際豫メ其旨届出ヘシ

入學試驗日割

	自午前八時 至全十時	自午前十時 至正午	自午後一時 至全三時
二月廿五日	國語 解釋	國語 作文	習字
全 廿六日	算術 珠算	算術 筆算	修身
全 廿七日	歷史 地理		

但豫備科ニ限リ修身習字ノ二科ヲ省ク

明治三十四年一月十六日 和歌山縣知事 椿 泰一郎

○和歌山縣告示第六號

獸疫豫防ノ爲メ左記ノ縣令發布ノ旨滋賀縣ヨリ通知アリタリ

明治三十四年一月十七日 和歌山縣知事 椿 泰一郎

滋賀縣令第一號

明治三十三年十二月滋賀縣令第八十五號中千葉縣ノ次へ左記ノ通り追加シ今年十二月滋賀

縣令第八十四號ヲ廢止ス

明治三十四年一月十日

滋賀縣知事

河島

醇

東京府 京都府京都市愛宕郡

參照

滋賀縣令第八十五號

流行性驚口瘡發生ニ付左ノ地方ヲ發シ若クハ通過シタル牛羊山羊豕ノ輸入ヲ停止ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十三年十二月廿八日

滋賀縣知事

河島

醇

神奈川縣

久良岐郡

三浦郡

長野縣

小縣郡

千葉縣

安房郡

○和歌山縣告示第七號

京都府下天田郡下夜久野村ニ於テ飼養ノ牝牛一頭炭疽ニ罹リ本月九日斃死セシ旨全府ヨリ

通牒アリタリ

明治卅四年一月十七日

和歌山縣知事

椿

葵一郎

○和歌山縣告示第八號

京都府下天田郡下豐富村ニ於テ飼養ノ牝牛壹頭氣腫疽ニ罹リ本月六日斃死セシ旨全府ヨリ

通牒アリタリ

明治三十四年一月十七日

和歌山縣知事

椿 藁 一 郎

○和歌山縣告示第九號

兵庫縣宍粟郡河東村ニ於テ客年十二月廿七日全郡安師村ニ於テ全月廿八日各牛一頭炭疽ニ罹リ斃死シ朝來郡梁瀬村ニ於テ全月廿七日牛一頭氣腫疽ニ罹リ全月廿八日斃死セシ旨全縣ヨリ通知アリタリ

明治三十四年一月十七日

和歌山縣知事

椿 藁 一 郎

○和歌山縣告示第十號

海草郡役所位置ヲ同郡宮前村大字手平ニ定ム

但現廳舎ヨリ移轉開廳ノ際ハ更ニ告示スヘシ

明治三十四年一月十七日

和歌山縣知事

椿 藁 一 郎

○和歌山縣告示第十一號

牛疫豫防ノ爲メ左記ノ府令發布ノ旨大坂府ヨリ通知アリタリ

明治三十四年一月十九日

和歌山縣知事

椿 藁 一 郎

大坂府令第一號

長崎縣ニ於テ牛疫發生ニ付豫防ノ爲獸疫豫防法第十二條ニ依リ長崎縣ヲ發シ若クハ通過シタル牛羊山羊及其生皮骨肉ヲ大坂府下ニ搬入スルコトヲ停止ス之ニ違背スル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年一月十二日

大坂府知事

菊地 侃 二

○和歌山縣告示第十二號

兵庫縣養父郡八鹿村ノ内下網場村ニ於テ本月四日牛一頭氣腫疽ニ罹リ斃死セシ旨全縣ヨリ通知アリタリ

明治三十四年一月十九日

和歌山縣知事

椿 莖 一郎

○訓 令

○和歌山縣訓令甲第四號

郡	郡	郡	郡
市	市	市	市
町	町	町	町
村	村	村	村
役	役	役	役
所	所	所	所
場	場	場	場
校	校	校	校

小學校祝賀式舉行手續左ノ通心得ヘシ

明治三十四年一月十六日

和歌山縣知事

椿 莖 一郎

小學校祝賀式舉行手續

第一條 兒童ヲ除ク外式場參列員男子ハフロックコート又ハ羽織袴女子ハ相當ノ服ヲ着ス
 ヘシ但學校職員ハ制服ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

第二條 兒童ノ服裝ハ質素清潔ヲ旨トシ苟モ虚飾ニ流レシムヘカラス

第三條 御影ノ奉掲奉收ノ學校長之ヲ掌リ學校長差支アルトキハ順次上席ノ教員之ヲ掌ル

ヘシ

第四條 御影ノ奉掲ハ右ヲ以テ 天皇陛下ノ御位(臣下ヨリ向テ) 皇后陛下

下ノ御位トスヘシ

(左手ニ拜シ奉ル) 左ヲ以テ

皇后陛下

第五條 御影奉掲ノ場合ニ於テハ小學校合施行細則第七條第二號ノ參列員ハ便宜 御影ノ

左右前兩側ニ列シ最敬禮ノ際ハ半右左向キヲナシテ 御影ニ對スヘシ

第六條 小學校合施行細則第七條第五號ノ場合ニ於テハ學校長 御影ノ正面ニ進ミ奉祝ノ

辞(謹奉賀紀元節天長節新年)ヲ上リ最敬禮ヲ行ヒ他參列員一同同時ニ最敬禮ヲ行フヘシ

第七條 第六條ノ場合ニ於テ學校長ハ 御影ノ正前面凡二間ノ所ニ出テ三步進ミ最敬禮ヲ

行ヒ了テ又三步退キ左廻シテ其ノ席ニ復スヘシ

第八條 勅語騰本ハ 御影前卓子ノ中央ニ奉置スヘシ

御影ヲ奉掲セサル學校ニアリテハ式場ノ正面卓子ノ中央ニ奉置スヘシ

第九條 勅語ヲ奉讀セントスルトキハ先ツ敬禮シ 御影ノ左側ニ立テ兩手ヲ以テ捧拜シ面

前凡ソ一尺五寸ノ所ニ開展スヘシ

但 御影ヲ奉掲セサル學校ニアリテハ式場ノ正面ヲ以テ奉讀ノ位置トス

第十條 勅語奉讀ハ尊嚴謹慎ヲ旨トシ調ノ緩急音ノ高低等各其宜シキヲ得妄リニ曲節ヲ付

シ又ハ輕々讀過スル等ノコトアルヘカラス

第十一條 勅語ノ年月日及 御名御璽ハ必ス之ヲ奉讀スヘシ

第十二條 勅語奉讀了ラハ靜ニ卷収シ兩手ヲ以テ捧拜シ舊位ニ奉置シ敬禮シテ其ノ席ニ復

スヘシ

第十三條 勅語奉讀中參列員ハ頭ヲ垂レ兩手ヲ前股ニ當テ、謹聽スヘシ

和歌山縣訓令甲第五號

郡 役 所

和歌山警察署

日高郡警察署

西牟婁郡警察署

粉河分署

鳥屋城分署

市 役 所

町 村 役 場

海軍召集條例第四條第一項ニ依リ吳鎮守府兵事官ヲシテ海軍召集事務ノ定期檢査ヲ本年海軍兵役志願人檢査所ニ於テ左記區分ニ依リ執行セシメラル

但シ海軍豫後備下士卒及海軍志願兵志願者ノ存在セサル町村役場ノ召集事務ハ左記第三

ニ依リ檢査ヲ受クルニ及ハス其ノ旨相心得ヘシ

明治三十四年一月十九日

記

和歌山縣知事

椿 蒸一郎

一各郡市役所ノ召集事務ハ被召集員ノ有無ニ關セス悉ク檢査セラル
 二被召集員アル町村役場ノ分ハ本年海軍志願兵志願者ノ有無ニ關セス檢査セラル
 三被召集員ナキ町村役場ノ分ハ本年海軍志願兵志願者ヲ出シタル所ノミヲ檢査セラル
 四警察署及分署ノ分ハ海軍兵役志願人檢査所所在地ニアル所ノミヲ檢査セラル
 五召集ニ關スル書類物件ハ海軍兵役志願人檢査所ヘ其ノ當日午前八時迄ニ携帶出頭スヘシ
 六前項ノ物件ハ海軍兵役志願人檢査所所在地附近ノ官衙公署ノ外ハ携帶ヲ要セス
 七海軍兵役志願人檢査所及其ノ時日ハ左記ノ通付ニ便宜ノ檢査所ニ出頭スヘシ

檢査月日

檢査所

二月廿七日

和歌山市役所内

同 廿八日

同

三月 一日

海草郡日方町永正寺

同 二日

有田郡鳥屋城村大字金尾天理教會内

同 四日

日高郡役所内

同 五日

西牟婁郡田邊町

同 九日

那賀郡粉河町皆乘寺

和歌山縣訓令甲第六號

郡 役 所
 市 役 所

徵發事務條例第二十一條ノ徵發物件表ハ客年十二月三十一日調ヲ以テ第一回トシ明治三十二年十二月三十一日調ヲ以テ第二回トシ爾後之レニ準各其ノ翌年二月末日迄ニ二通ヲ差出スヘシ

同條例第二十四條ノ徵發物件表當廳ニ於テ調製ニ要スル材料其ノ離形ニ依リ調査シ前項ノ表ト同時ニ一通差出スヘシ

同條例第二十五條ノ工場表及汽船表當廳ニ於テ調製ニ要スル材料各其ノ離形ニ依リ調査シ毎年二月末日迄ニ差出スヘシ但シ汽船表ノ材料ハ新ニ之レヲ造リ又ハ買入レタル船舶アルトキハ其ノ時々進達スヘシ

同條例第四十九條ノ平均物價表當廳ニ於テ調製ニ要スル材料トシテ和歌山市ハ和歌山、西牟婁郡ハ田邊、東牟婁郡ハ新宮ノ各市場平均物價表其離形ニ依リ調製シ毎年二月末日迄ニ差出スヘシ但シ其ノ他ノ郡役所ニアリテハ進達ヲ要セス但シ明治三十二年十一月本縣訓令甲第六十一號ハ廢止ス

明治三十四年一月十九日

和歌山縣知事

椿 素一郎

明治三十三年

五月八日 第三種郵便物認可(毎月四日十陽日廿四日三回發行)

明治三十四年一月二十三日

壹頁代價金

口欠一系

和歌山市九番九番地